

再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担当課：環境安全課  
担当課長名：菊地 春海

事業名	ほくぶかんじょう その他市道 北部環状線		事業区分	地方道	事業主体	岩手県
起終点	いわてけんみやこしやまぐち 自：岩手県宮古市山口 いわてけんみやこしきばら 至：岩手県宮古市佐原			延長	2.5 km	
事業概要	<p>市道北部環状線は、三陸縦貫自動車道（仮称）宮古北ICと国道45号を結ぶ道路であり、宮古市内の渋滞緩和や三陸縦貫自動車道へのアクセス向上を目的として整備するものである。</p> <p>また、津波浸水区域を回避して第二次救急医療施設へのアクセスが可能となるなど、安全性の向上も期待されるものである。</p> <p>当該事業は、山村振興法に基づき市町村道代行事業として岩手県が整備を行うものである。</p>					
H23年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)		H23年度用地取得 完了済		H23年度工事着手	
全体事業費	4.7億円	事業進捗率	6.6%	供用済延長	— km	
計画交通量	5,000台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.5 (残事業) 16.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 7.7億円/51億円 〔事業費：6.5億円/49億円〕 〔維持管理費：1.2億円/1.2億円〕	総便益 (残事業)/(事業全体) 127億円/127億円 〔走行時間短縮便益：91億円/91億円〕 〔走行経費減少便益：29億円/29億円〕 〔交通事故減少便益：7.1億円/7.1億円〕	基準年	平成27年	
感度分析の結果	<p>【事業全体】 交通量：B/C=2.2~2.9(交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.5~2.5(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.4~2.6(事業期間±20%)</p> <p>【残事業】 B/C= 14.1~18.8(交通量 ±10%) B/C= 15.1~17.8(事業費 ±10%) B/C= 15.7~17.0(事業期間±20%)</p>					
事業の効果等	<p>①地域道路ネットワークの強化・アクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮古市街地から国道45号を通過せずに宮古市北部へ迂回する路線であり、国道45号及び宮古市街地の渋滞緩和が見込まれる。</li> <li>三陸縦貫自動車道（仮称）宮古北ICと国道45号を最短距離で結び、両路線へのアクセスが向上。</li> </ul> <p>②安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三陸沿岸道路と連携して、内陸部から津波浸水区域を回避する医療拠点へアクセスが確保される。</li> <li>宮古市内通過交通の排除等により、通過交通に起因する交通事故の減少が見込まれる。</li> </ul> <p>③地域社会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岩手県を代表する観光地である、陸中海岸公園「浄土ヶ浜」へのアクセス向上。</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見	<p>・地元で構成する「三陸沿岸都市会議」「岩手県沿岸市町村復興期成同盟会」から三陸沿岸道路の早期整備要望を受けている。</p>					
事業評価監視委員会の意見	<p>対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である</p>					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<p>・その他市道 北部環状線（第2工区） 延長1.28 km（平成24年度事業化）</p>					

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成23年度事業化、用地進捗率100%、事業進捗率66%（平成27年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・事業の進捗に係る問題はない
- ・平成28年度：供用開始予定

施設の構造や工法の変更等

- ・コンクリート二次製品の積極的な活用や再生骨材の採用等によりコスト縮減を図っている。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。